

都営交通では、誰もが利用しやすい公共交通機関を目指して、ハード・ソフト両面からバリアフリー化を推進している

主な取組事例



浅草線ホームドア

駅のバリアフリー ホームドア全駅整備

ホームからの転落防止に有効なホームドアを2024年2月に全駅で整備完了



大江戸線両国駅

駅のバリアフリー バリアフリールート

ホームから地上までエレベーター等を利用して移動可能な経路を全駅で1つ以上確保



浅草線五反田駅

駅のバリアフリー バリアフリートイレ

手すり、介助用ベッド又はベビーシートなどを備えたバリアフリートイレを全駅で1か所以上整備



三田線三田駅

駅のバリアフリー 段差・隙間対策

ホームと車両の段差・隙間の縮小に向け、ホーム先端部のかさ上げ等の対策を実施



新宿線車両

車両のバリアフリー 「人にやさしい」車両

ユニバーサルデザインの考えに基づき、各車両へのフリースペース、低い吊り手や荷棚等を設置



車両のバリアフリー ノンステップバス

床面高さを30cmとし、乗降口のステップをなくしたノンステップバスを導入



心のバリアフリー マナー啓発ポスター

ポスターや動画等を作成し、駅や車内でのPRを実施



心のバリアフリー 都営交通マナーブック

公共交通利用におけるマナーブックを作成し、小学校等で配布

都営交通におけるバリアフリー化

「声かけ・サポート運動」(2016年度～)

- お困りのお客様を見守り支え合う動きを社会全体の運動としてより広く進めるため、全国の鉄道事業者等が連携したキャンペーンを通年実施
- 駅係員によるお困りのお客様への積極的な声かけに加え、周囲のお客様にもご協力を呼びかけ



掲出ポスター

認知症SOS声かけネットワーク模擬訓練(2019年度)

- 『認知症になってからも外出が続けられる地域社会を目指して』をテーマに、駅係員が認知症の方へ声かけを行い、目的地へ誘導する訓練をロールプレイング形式で地元区等と連携して実施



篠崎駅での御案内

認知症サポーター養成講座(2019年度～)

- 東京都キャラバン・メイト養成研修を修了した交通局職員が講師となり、「認知症サポーター養成講座標準教材」等に基づき実施
- 累計受講者数は約450名(2024年6月現在)



認知症サポーター養成講座の様子

職場単位での研修(2016年度～)

- 認知症の方への対応等について、全ての駅係員(約2,000名)を対象に、年1回悉皆研修を実施
- 2020年度からは「公共交通事業者に向けた接遇ガイドライン(認知症の人編)」も活用

引き続き、誰もが安心して円滑かつ快適に移動できる環境整備に取り組み、共生社会の実現に貢献していく